

SU-35 戦闘機の対中輸出交渉の進展状況

漢和防務評論 20150805 (抄訳)

阿部信行

(記者コメント)

SU-35 の対中輸出について、中露間で問題があるようです。中国は機体を輸入する前に完全に中国仕様に改修することを求めています、そうすると引き渡し時期が遅くなり、中国の気が変わる可能性があるからです。ロシアとしては、早く売って資金を回収したいと考えているようです。中国はしたたかですから、インドとロシアが共同開発しつつある第5世代U-35-5 (NG) の進展状況を見て、値切ろうと考えているかもしれません。

KDR 平可夫特電：

ロシア軍事工業界の権威筋は、ランカウエイ（マレーシア）において KDR に対し次のように述べた：今年になって SU-35 の対中輸出交渉が進展している。未だ解決すべき多くの問題が残っているが、我々は今年中に交渉を終わらせ契約に持ち込めるよう努力している、と。中国とロシアが SU-35 及び S-400 地対空ミサイルの輸出契約を正式に締結した、との一部メディアの報道に就いて、ロシア国家武器輸出入総公司 (ROSOBORONEXPORT) 総裁 ANATOLY ISAIKIN 及びロシア連邦軍事技術協力局局長 A.FOMIN は、同時に、現在、未締結であると述べた。これがロシアで最も権威ある軍事工業界指導者の証言である。

ALEXANDER FOMIN は、若干の問題、すなわちフランス製ミストラル号ドック型揚陸艦の引き渡し時期の遅延問題について KDR の質問に返答した。

FOMIN：確かに引き渡し時期を過ぎている。我々はフランスの理知的な決定を期待している。我々は回答を待っている。今のところ、契約取り消しはない、と。

KDR：引き渡し期限を過ぎているのは、契約違反ではないか？ロシアは損害賠償を請求するのか？

FOMIN：我々は、現在、フランスに制裁を科すことは考えていない。しかしフランス側は速やかに明確な決定をすべきである。

KDR：ウクライナは、ロシアへの武器輸出を禁止しているが、ロシアの軍事工業生産に影響はあるか？

FOMIN：確かに彼らはそのように言いつつ、実行している。確かに我々は航空エ

エンジン及び一部のミサイル部品の補給が困難になっているが、これらの困難を克服するには時間と投資が必要だ。我々は、これらの装備は自ら製造しようと考えており、これらの困難は解決できる。

KDR は SU-35 の対中輸出に如何なる問題があるのか、関係する権威筋に質問したところ次のような返答があった。

：我々は、一つ一つの問題を逐一解決する。中国との交渉に於いては、中国側は一連の要求を列挙し、我々に解決できるかどうかを問うている。例えば：彼らは SU-35 に中国製の通信システム、IFF 装置、レーダー警報システム (RADAR WARNING SYSTEM) 等等を取付けるよう求めている。我々は可能であると回答している。しかし時間と投資が必要だ。要求が 1 項目増える度に引き渡し時期が延びて行く。したがって我々は提案している。第一段階は、まず一部の基本問題を解決することだ、と。例えば、彼我識別装置 (IFF) である。全ての計器表示を中国語で表示させる問題等々は、後回しの作業に過ぎないし時間も余計にかかる。それには、まず航空機を引き渡して、その後に中国側の要求に基づいて逐次改修してゆけばよい。したがって我々は、現在、引き渡し前にどの技術が改修可能か、そしてどの技術を引き渡し後に改修すべきかに集中して交渉を行っている。

基本価格を固定することは、双方が納得している。しかし最終価格は中国側の技術改修要求によって決まる。1 つの取付け作業ごとに数百万ドルが必要になる。

KDR 問：中国が SU-35 をコピーする心配はないか？

ロシア権威筋：中国に武器を輸出する場合、次のように考えている。ロシアの技術者は中露双方の技術格差と複製能力、現状、どの技術が最も複製される危険が高いか？さらに国際市場に与える衝撃の有無等を詳細に研究している。したがって秘密にはしない。すなわちロシアは、キー技術に関して依然として中国に対し優位を保っているからだ。

これは、インドとの協力とは完全に異なる。現在、我々は、中国とは 2 つの大型武器貿易で交渉を進行中である。すなわち SU-35 と S-400 である。しかしインドとは、今年のインド航空ショーで多くの聯合武器開発、共同技術開発の契約を結んだ。その中に次世代の SU-35 NG 戦闘機の開発等が含まれる。現在、この協力は第 2 段階に入ろうとしている。すなわち設計が始まった。共同して危険とコストを負担するのである。そのほか T-50 を基礎とした次世代戦闘機を共同開発、及び次世代軍用輸送機的设计事業は、新たな段階に入った、と述べた。

消息筋は、インドとロシアがすでに第 5 世代 SU-35 戦闘機の聯合開発交渉を行っていること、また聯合設計段階に入っていることを初めて認めた。

KDR は、第 5 世代 SU-35 戦闘機の技術改修事業にインドが投資した場合、ロシアとしてはこれら技術の成果を中国に移転することは不可能であると考える。現在中露が交渉中の SU-35 は基本型であり、SU-35-4 型と称される。

インドが選択した SU-35-5 (NG) に話を戻すと、126 機の RAFALE 戦闘機（現在は 53 機）を輸入する話は正式に放棄したのだろうか？インドのメディアは、価格が高騰したため、すでに空軍は 126 機の RAFALE の放棄を決定したと報道している。

ロシア航空工業界の消息筋は次のように分析している：インドとフランスの 126 機の RAFALE の交渉は終了していない。インドの姿勢は価格引き下げ交渉の一部である、と。

しかし、ロシア UAC (聯合航空機集団) の消息筋は次のように述べた：今年、中露双方は、一連のトップ会談を举行する。ロシアは、新たな国際政治情勢、経済情勢、中国との石油・天然ガス協力の進展、指導者間の個人的交流等の要素から、中国との SU-35 交渉を更に加速させるであろう。彼は「SU-35 交渉が中露の一連の協力枠組みの一部になる可能性もある」ことを強調した。

KDR は以前に報道したが、SU-35 に関する全ての問題は、両国の軍事工業界の技術者レベルをすでに超越し、ロシア大統領府と党中央辦公庁レベルに上昇している。両国首脳が直接会って協力するしかない。このため、党中央辦公庁主任の栗戦書が 3 月に再度モスクワを訪問した際、官側の報道はなく、ひそかに訪問したようだ。過去の経験から見ると、この種の状況は、両国首脳が会わなければ、困難な問題が解決できないことを示している。

以上